



は せ がわ ゆき こ
長谷川 幸子

に ほん きょうさん どう つ し ぎ だん
日本共産党津市議団

切実さを増す加齢性難聴への支援策は

問 国民の10人に1人は加齢性難聴と言われている。人生を豊かに過ごすためには、音や声を耳で感じるということは大切なことであり、健診項目に聴力検査を加えるべきではないか。

また、難聴者が社会参加する必需品でもある補聴器購入への補助制度の検討はしているのか。

加齢性難聴の放置が認知症やうつ病の原因と言われているが、早期対応への考えは。

現在、支援策はないが国等の動向を注視

答 健診を受診できる協力医療機関の多くは内科の開業医で、市内全ての医療機関で聴力検査ができる設備が整っているわけではない。また、受診時に生活習慣等について聞き取る質問票は全国統一書式となっており、現在の健診項目に聴力検査の項目を追加することは難しい。

補聴器購入への補助制度については、津市にはないが、今後、国や県等の動向を注視していく。

難聴は認知症の危険因子の一つとされており、国では、補聴器の認知機能に対する効果として、認知機能低下の予防効果を検証するための研究が行われているため、こちらにも動向を注視していく。

●その他の質疑・質問●

- 平和の取り組みについて
 - 津の空襲を記録する常設の展示室の設置を
 - 戦争被害を次世代に伝えるため戦跡など説明表示板の設置を
- 生活保護世帯へのエアコン設置や夏季加算（電気代など）など津市独自の支援を
- LGBT（性的マイノリティ）の人権が守られ、生活向上のため差別のない社会を など



▲戦跡に説明表示板の設置を（寒松院の被爆した石碑）



た なか かつ ひろ
田中 勝博

いっ しん かい
一津 会

ごみ焼却施設の長寿命化と施設の更新は

問 津市のごみ焼却施設は、西部クリーンセンターとクリーンセンターおおたかの2施設である。西部クリーンセンターについては、長寿命化計画を立て延命化を図ってきたが、問題が山積している。施設を建てるにも、候補地の選定、環境アセスメント、財源など、かなりの時間が必要である。

施設の更新と今後のスケジュールについてはどうか。

新しい焼却システムの在り方を検討していく

答 西部クリーンセンターについては、令和10年度を目標年とした整備計画を策定し、少しでも延命化させ、経済的な効果をもたらすよう努力しているが、さらに10年、15年という延命化は難しいと考えている。

現時点で、スケジュールは決まっていないが、一般的に新しい焼却システムを建設する場合、計画や造成設計などに3年、施設の影響評価に3年、施設の設計と建設に4年程度で合計10年程度を要する。

このことから、今後、早急に新しい焼却システムの在り方について、方向性を定めた上で、スケジュールなど詳細な内容について、検討していく。

●その他の質疑・質問●

- 北消防署の整備の進捗は
- 在宅被災者の問題について
- 社会教育、生涯教育行政の役割と課題は
- 決算に係る健全化判断比率について、連結実質赤字比率から
- 水道事業会計の料金改定は
- 下水道事業の経営健全化は
- 国保会計から、保険料の額、収納状況、県の調整機能における財政健全化はどうか など



▲西部クリーンセンターの焼却施設